

Sun Fire™ X2250 サーバー ご使用の手引き

本書には、Sun Fire™ X2250 サーバーハードウェアのセットアップに関する基本情報、サーバーのサービスプロセッサと Integrated Lights Out Manager ソフトウェアのセットアップ作業、および Sun Fire X2250 サーバーを設置する際に役立つドキュメントのフローチャートが記載されています。詳細な設置情報は、『Sun Fire X2250 サーバー設置マニュアル』(820-5092)に記載されています。このドキュメントは、次の Sun ドキュメント Web サイトからダウンロードできます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sf.x2250>

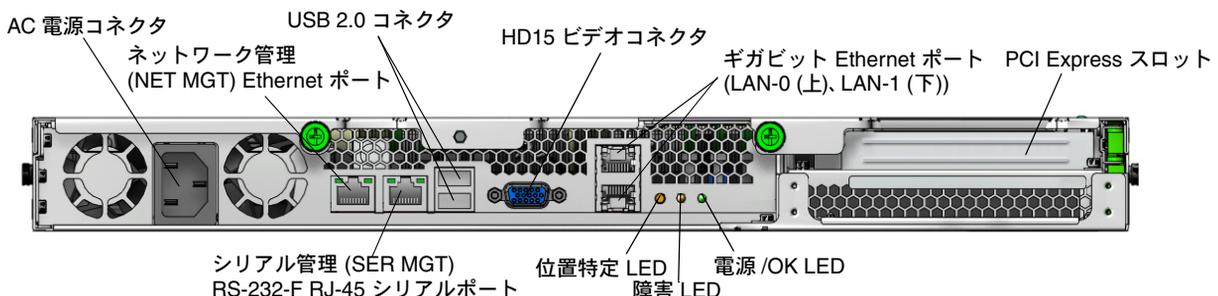
安全上の注意

設置を行う前に次のマニュアルを参照して、Sun Fire X2250 サーバーに関する安全上の注意事項を確認してください。

- 『Important Safety Information for Sun Hardware Systems (Sun ハードウェア システム安全上の注意)』(816-7190): 出荷品一式に入っているハードコピーマニュアル。
- 『Sun Fire X2250 Server Safety and Compliance Manual (Sun Fire X2250 サーバー安全の手引き)』(820-4595): Sun ドキュメント Web サイトからダウンロード可能。

システムの概要

次の図に、Sun Fire X2250 サーバーの前面パネルと背面パネルを示します。



Sun Fire X2250 サーバーの開梱

すべてのサーバーコンポーネントを梱包箱から慎重に取り出します。

- Sun Fire X2250 サーバー
- オプションの Sun Fire X2250 サーバーアクセサリキット (次のドキュメントとメディアを含む)
 - Sun Fire X2250 サーバー設置マニュアル (820-5092)
 - ライセンス、安全上の注意、および登録に関する追加のドキュメント
 - Sun Fire X2250 サーバーの Tools and Drivers CD (ドライバと追加のソフトウェアを含む)
- オプションのラックマウントキット (ラックレールと設置説明書を含む)

ラックへのサーバーの取り付け

Sun Fire X2250 サーバーの上部カバーに貼付されているサービスラベルには、別注のスライドレールおよびケーブル管理アームを使ってサーバーを 4 ポストラックに取り付ける手順が記載されています。詳細な手順は、次の URL で公開されている『Sun Fire X2250 Server Service Manual (Sun Fire X4600 サーバーサービスマニュアル)』(820-4593) にも記載されています。

<http://docs.sun.com>

ケーブルの接続

コネクタの場所については、「[システムの概要](#)」を参照してください。

次の手順に従って、サーバーと外部デバイスを接続します。

1. シリアルヌルモデムケーブルをシリアルポートに接続します。
2. 必要に応じて、Ethernet ケーブルを RJ-45 LAN ギガビット Ethernet コネクタに接続します。

Ethernet (LAN) ポートに関する次のガイドラインに留意してください。

- ネットワーク管理 (NET MGT) Ethernet ポートまたはシリアル管理 (SER MGT) RJ-45 シリアルポートは、サーバーの管理とネットワークアクセスのために使用します。リモートシステム管理のためのサービスプロセッサのセットアップの詳細については、『Sun Fire X2250 サーバー設置マニュアル』(820-5092) を参照してください。
- 2 基のギガビット Ethernet ポート (LAN-0 と LAN-1) はプライマリネットワークインタフェースコントローラ (NIC) です。これらを、オペレーティングシステムとドライバのネットワークインストールで使用する必要があります。

サーバーの電源投入と電源切断

この時点では、サービスプロセッサの初期構成を実行できるように、サーバーにスタンバイ電源のみを供給する必要があります。この節では、参考までに主電源モードを投入する手順とシャットダウンする手順についても説明します。

▼ スタンバイ電源を供給して、サービスプロセッサの初期構成を行う

この手順を使用して、初期構成の前にサービスプロセッサ (SP) にスタンバイ電源を供給します。



注意 - 必ず、ファン、コンポーネントヒートシンク、エアバッフ、カバーをすべて取り付けて、サーバーを操作してください。適切な冷却メカニズムがない状態で操作すると、サーバーのコンポーネントに重大な損傷が生じることがあります。

1. 接地済みの AC 電源コードを、サーバーの背面パネルにある AC 電源コネクタと接地済みの AC 電源コンセントに差し込みます。

この時点では、スタンバイ電源がサービスプロセッサと電源ファンのみには供給されます。プラットフォームのオペレーティングシステムをインストールする準備が整うまで、主電源をサーバーのほかの部分には入れないでください。

2. 「Sun Fire X2250 サーバーソフトウェアのセットアップ」の説明に従って、ソフトウェアの初期セットアップ作業を続けます。

▼ 主電源モードで電源を投入する

1. 電源コードが接続され、スタンバイ電源がオンの状態であることを確認します。
スタンバイ電源モードでは、前面パネルの電源/OK LED が点滅します。
2. サーバーの前面パネルにある、へこんだ電源ボタンを、金属以外の先のとがったもので押します。
主電源がサーバー全体に供給されると、電源ボタンのとなりにある電源/OK LED が点灯し続けます。

注 – サーバーの電源を初めて投入すると、電源投入時の自己診断テスト (POST) が実行されます。このテストが完了するまで、1 分ほどかかることがあります。

▼ 主電源モードで電源を切断する

主電源モードでサーバーの電源を切断するには、次の 2 つの方法のいずれかを使用します。

- 適切な順序でのシャットダウン：サーバーの前面パネルにある、へこんだ電源ボタンを、金属以外の先のとがったもので押します。ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) が有効な OS では、これで適切な順序での OS シャットダウンが実行されます。
- 緊急シャットダウン：電源ボタンを 4 秒間押し続けると、主電源が切断されスタンバイ電源モードになります。主電源が切断されると、前面パネルにある電源/OK LED が点滅し、サーバーがスタンバイ電源モードにあることを示します。



注意 – サーバーの電源を完全に切断するには、サーバーの背面パネルから AC 電源コードを取り外します。

Sun Fire X2250 サーバーソフトウェアのセットアップ

この節では、サーバーのサービスプロセッサおよび Integrated Lights Out Manager (ILOM) ソフトウェアの初期セットアップ作業について説明します。ILOM を使用して Sun Fire X2250 サーバーを構成および管理する方法の詳細については、『Sun Fire X2250 サーバー設置マニュアル』(820-5092) および『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 User's Guide (Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド)』(820-1188) を参照してください。

ILOM サービスプロセッサへの接続

ILOM SP に接続して、初期セットアップと構成を行う方法は 3 つあります。次の手順のいずれかを選択します。

- 「シリアル接続を使用して ILOM に接続する」
- 「Ethernet 接続 (DHCP) を使用して ILOM に接続する」
- 「Ethernet 接続 (静的 IP アドレス) を使用して ILOM に接続する」

シリアル接続を使用して ILOM に接続する

この手順では、ILOM SP へのシリアル接続を確立し、ILOM の初期構成を行います。

注 – この手順は、「[サーバーの電源投入と電源切断](#)」の説明に従ってハードウェアの設置を完了し、サーバーにスタンバイ電源を供給していることを前提にしています。

▼ シリアル接続を使用して ILOM に接続する

1. ご使用の端末、ラップトップ、または端末サーバーが稼働していることを確認します。
2. 端末デバイス、あるいはラップトップまたは PC 上で実行している端末エミュレーションソフトウェアを次のように構成します。
 - 8N1: データビット 8、パリティなし、ストップビット 1
 - 9600 ボー
 - ハードウェアのフローコントロール無効 (CTS/RTS)
 - ソフトウェアのフローコントロール無効 (XON/XOFF)
3. サーバーの後面パネルにある RJ-45 SERIAL MGT ポートと端末デバイスをシリアルケーブルで接続します。
4. 端末デバイスで Enter キーを押して、端末デバイスと ILOM SP との接続を確立します。
5. ILOM にログインします。
デフォルトのユーザー名は **root**、デフォルトのパスワードは **changeme** です。
6. CLI を使用してネットワークの構成を行います。
手順については、「[Ethernet 接続 \(静的 IP アドレス\) を使用して ILOM に接続する](#)」を参照してください。
7. サーバーの構成後、「[プラットフォームオペレーティングシステムおよびドライバソフトウェアのセットアップ](#)」に進みます。

Ethernet 接続 (DHCP) を使用して ILOM に接続する

この手順では、ILOM SP への Ethernet 接続を確立し、ILOM の初期構成を行います。

注 – この手順は、「[サーバーの電源投入と電源切断](#)」の説明に従ってハードウェアの設置を完了し、サーバーにスタンバイ電源を供給していることを前提にしています。

▼ Ethernet 接続 (DHCP) を使用して ILOM に接続する

1. システム管理者に、DHCP サーバーが、新しいメディアアクセス制御 (MAC) アドレスを受け入れるように構成されていることを確認してください。
2. Ethernet ケーブルをサーバーの RJ-45 NET MGT Ethernet ポートに接続します。
3. 次のいずれかの場所から ILOM SP の IP アドレスを取得します。今後の参照のために、その IP アドレスを記録します。
 - CLI コマンド: SP には、端末デバイスを接続できるシリアルポートがあります。SP にログインし、CLI コマンド **show /SP/network** を入力すると、現在の IP アドレスが表示されます。
 - お客様情報シート: この文書は、サーバーに付属しています。

- システムの BIOS セットアップ画面: ブートアップ中に F2 キーを押し、「Advanced (詳細)」→「IPMI 2.0 Configuration (IPMI 2.0 構成)」→「LAN Configuration (LAN 構成)」→「IP address (IP アドレス)」を選択します。
4. 手順 3 で記録した IP アドレスを使用して ILOM SP とのセッションを開きます。
CLI または Web インタフェースを使用できます。
 - SSH 接続を確立するために、DHCP 割り当て IP アドレスを SSH アプリケーションに入力します。次に例を示します。

```
# ssh -l root 129.144.82.20
```


デフォルトのユーザー名は **root** で、ssh コマンドに含まれていました。SP のデフォルトのパスワードは **changeme** です。
 - ILOM SP Web インタフェースへの接続を確立するために、ブラウザのアドレスボックスに ILOM SP の IP アドレスを入力して Enter キーを押します。プロンプトが表示されたら、デフォルトのユーザー名とパスワードを入力します。
 5. CLI または Web インタフェースでユーザー名とパスワードを入力した後、インタフェースを使用して ILOM SP を構成します。
 6. サーバーの構成後、「プラットフォームオペレーティングシステムおよびドライバソフトウェアのセットアップ」に進みます。

Ethernet 接続 (静的 IP アドレス) を使用して ILOM に接続する

DHCP サーバーから ILOM SP に IP アドレスを割り当てる代わりに、静的 IP アドレスを割り当てることもできます。この割り当ては、ネットワークまたはシリアルポートで CLI を使用するか、Web インタフェースを使用するか、またはサーバーの BIOS セットアップユーティリティを使用して行うことができます。次の手順のいずれかを選択します。

▼ CLI を使用して静的 IP アドレスを構成する

1. SSH を使用するか、シリアルポートに接続して、CLI にログインします。
ILOM CLI への SSH 接続を確立するために、DHCP 割り当て IP アドレスを SSH アプリケーションに入力します。次に例を示します。

```
# ssh -l root 129.144.82.20
```


デフォルトのユーザー名は **root** で、ssh コマンドに含まれていました。SP のデフォルトのパスワードは **changeme** です。
2. 次の例の該当する箇所に自分のアドレスを使用して、次のコマンドを入力します。

```
cd /SP/network  
set pendingipaddress=129.144.82.26  
set pendingipnetmask=255.255.255.0  
set pendingipgateway=129.144.82.254  
set pendingipdiscovery=static  
set commitpending=true
```

▼ Web インタフェースを使用して静的 IP アドレスを構成する

1. 次のいずれかの場所から ILOM SP の現在の IP アドレスを特定します。
 - CLI コマンド: SP には、端末デバイスを接続できるシリアルポートがあります。SP にログインし、CLI コマンド **show /SP/network** を入力すると、現在の IP アドレスが表示されます。

- システムの BIOS セットアップ画面: ブートアップ中に F2 キーを押し、「Advanced (詳細)」→「IPMI 2.0 Configuration (IPMI 2.0 構成)」→「LAN Configuration (LAN 構成)」→「IP Address (IP アドレス)」を選択します。
2. リモートシステム上で実行中の Web ブラウザを使用して、ILOM SP に接続します。
ILOM SP への接続を確立するために、ブラウザのアドレスボックスに IP アドレスを入力します。ILOM Web インタフェースのログイン画面が表示されます。
3. デフォルトのユーザー名 **root** とデフォルトのパスワード **changeme** を使用して、Web インタフェースにログインします。
4. 「Configuration (構成)」タブとその「Network (ネットワーク)」タブを選択して、ご使用の ILOM SP の現在のネットワーク構成に関する情報を表示します。
5. 「Use the Following IP Address (次のIPアドレスを使用する)」オプションをクリックして、静的 IP アドレスの情報を入力します。

▼ BIOS セットアップユーティリティを使用して静的 IP アドレスを構成する

1. 電源投入時の自己診断テスト (POST) の間に F2 キーを押して、BIOS セットアップユーティリティに入ります。
2. BIOS のメインメニュー画面が表示されたら、「Advanced (詳細)」→「IPMI 2.0 Configuration (IPMI 2.0 構成)」→「LAN Configuration (LAN 構成)」→「IP Address (IP アドレス)」を選択します。
3. IP Address Mode (IP アドレスモード) 画面で、「Static (静的)」を選択します。
4. 「IP Address (IP アドレス)」フィールドに静的 IP アドレスを入力します。
「ESC」を選択して戻り、サブネットマスクとデフォルトのゲートウェイの設定をそれぞれのフィールドに入力します。
5. 「Commit (確定)」を選択し、Enter キーを押して、変更を確定します。
6. 「Current IP address in BMC (BMC の現在の IP アドレス)」フィールドに新しい静的 IP 設定を表示するには、「Refresh (リフレッシュ)」を選択し、Enter キーを押します。
7. 「Exit (終了)」メニュー画面が表示されるまで、右矢印キーを押す動作を繰り返します。
8. 「Exit (終了)」メニュー画面の説明に従って変更内容を保存し、BIOS セットアップユーティリティを終了します。

プラットフォームオペレーティングシステムおよびドライバソフトウェアのセットアップ

ILOM SP のネットワーク設定を行ったら、プリインストールされたオペレーティングシステムを構成するか、サポートされている Solaris、Linux または Windows プラットフォームのオペレーティングシステムとドライバをインストールできます。詳細については、次のドキュメントを参照してください。

- サーバーに Solaris 10 オペレーティングシステムがプリインストールされている場合、サーバーで Solaris OS を構成する手順については、『Sun Fire X2250 サーバー設置マニュアル』(820-5092)を参照してください。
- サポートされている Solaris、Windows、または Linux OS と必要なドライバをインストールする手順については、『Sun Fire X2250 Server Operating System Installation Guide (Sun Fire X2250 サーバーオペレーティングシステムインストールガイド)』(820-5102) または 『Sun Installation Assistant for Windows and Linux User's Guide (Windows および Linux 用 Sun Installation Assistant ユーザーズガイド)』(820-3357)を参照してください。

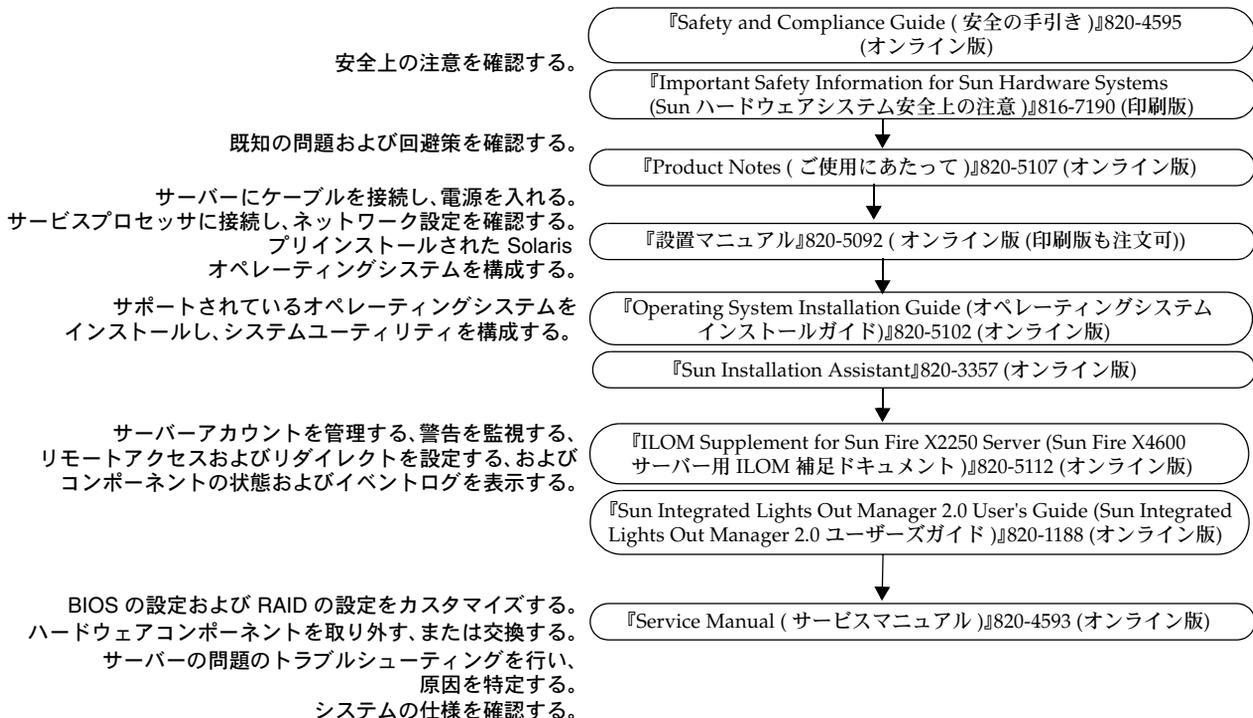
Sun Fire X2250 サーバーのドキュメントへのアクセス

次のフローチャートは、新しいシステムのインストール時にタスクを実行する順序に、各ドキュメントを並べたものです。左でタスクを確認し、右に記載されている対応するドキュメントを参照してください。Sun のドキュメント Web サイトでは、すべてのドキュメントの最新バージョンを公開しています。この Web サイトのアドレスは次のとおりです。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sf.x2250>

注 – 印刷版別注可と明記されているドキュメントは、システムに自動的に添付されません。これらのドキュメントは、システムの発注時にオプションとして指定する必要があります。これらのオンライン版は、製品ドキュメント Web サイトからダウンロードできます。

次の作業には、次のドキュメントを参照してください。



Sun オンライン

最新のドキュメントの参照

最新バージョンのドキュメントを参照するには、次の Sun ドキュメント Web サイトで Sun Fire X2250 サーバーを検索してください。

<http://docs.sun.com/>

この製品ドキュメント Web サイトでは、最新情報を公開しています。製品情報の重要なアップデートについては、プロダクトノートまたはリリースノートを参照してください。特定のドキュメントがお手持ちのドキュメントよりも新しいかどうかを確認するには、該当するドキュメントの部品番号の下二桁の数字を参照してください(たとえば、XXX-XXXX-12 は XXX-XXXX-10 よりも新しいバージョンです)。

一部のドキュメントについては、<http://docs.sun.com> に翻訳版が用意されています。

ドロップダウンリストで言語を選択し、Sun Fire X2250 サーバーのドキュメントに移動します。Sun Fire X2250 サーバーのドキュメントについては、簡体字中国語、繁体字中国語、フランス語、日本語、韓国語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

Sun Fire X2250 サーバー製品アップデートのダウンロード

製品アップデートについては、次の URL を参照し、本製品に関するページに移動してください。

<http://www.sun.com/servers/index.jsp>

Sun テクニカルサポートの連絡先

本製品に関して、ドキュメントに記載されていないテクニカルなご質問がある場合は、次のサイトをご利用ください。

<http://www.sun.com/service/contacting>

コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。コメントは次のサイトを通してお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback/>

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号の記載をお願いいたします。

Sun Fire X2250 サーバーご使用の手引き、部品番号 820-5097-10

Copyright 2008 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved. 本製品はライセンス契約に基づく場合のみご使用いただくことができます。本製品に含まれるサードパーティソフトウェア(フォントに関するテクノロジーを含む)は、著作権を有する当該各社より Sun 社へライセンス供与されているものです。製品の一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Java、Sun Blade、Solaris は、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC の商標はすべて、ライセンス契約に基づいて使用されており、SPARC International, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。米国政府の権利 - 商用。政府関連のユーザーは、Sun Microsystems, Inc. の標準ライセンス契約、および FAR とその補足条項に従う必要があります。

Copyright 2008 Sun Microsystems, Inc. Tous droits réservés. Distribué par des licences qui en restreignent l'utilisation. Tout logiciel tiers, sa technologie relative aux polices de caractères comprise, est protégé par un copyright et licencié par des fournisseurs de Sun. Des parties de ce produit peuvent dériver des systèmes Berkeley BSD licenciés par l'Université de Californie. Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, Java, Sun Blade, et Solaris sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux États-Unis et dans d'autres pays. Toutes les marques SPARC sont utilisées sous licence et sont des marques de fabrique ou des marques déposées de SPARC International, Inc. aux États-Unis et dans d'autres pays.



Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com